

府立生野聴覚支援学校



テーマ:言語力(日本語力)の向上をめざして～国語の指導力を向上させよう～

概要

国語の指導力を向上させるために

子どもたちに言語力を付けるために、国語の指導力を向上させることを本年度のテーマにしました。手話や口話など、異なる手段によってコミュニケーションをとる子どもたちの学習において、どのような言語活動を展開すればよいのかという点について、教員全体で検討していきたいと考えました。

実施スケジュール

Research

6月上旬

担当者、担当指導主事で、今後の進め方について打合わせ

Vision

7月29日

全体会を開催

Plan

10月下旬～

指導主事による授業見学・指導案検討

Do

11月4日

研究授業・研究協議(小学部:国語)

Check & Act

1月中旬

アンケート集約

全体会

7月29日「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善と国語の指導について

- 研究部より校内の国語の授業に対するアンケート結果の報告がありました。国語の指導においては語彙数を増やすことや助詞の教え方等に困難を感じる教員が多いことが分かりました。また、聴覚支援学校の授業の中で言語活動を取り入れるためにはどのような工夫が必要なのか、という疑問等が寄せられました。
- 支援教育推進室指導主事より

<p>ここがすごい!日本の研究授業</p> <p>研究授業とは… 授業の質の向上、新しい教育方法の効果測定などを目的に、教師間に公開される授業</p> <p>日本には学習指導要領があり、教科書が充実に書かれていることもあって、教師同士で授業中の授業の質、指導法について話し合いながら互いに高め合っている文化が根付いている。</p> <p>日本の研究授業の一つの特徴は、「どのような子どもを見てみたいか」といった問いから始まる。子どもの社会性や人格形成を支援する人(教師)を最終目標として目指している。</p>	<p>これからの社会</p> <p>新たな社会 Society 5.0</p> <p>1.0 Society 1.0 情報</p> <p>2.0 Society 2.0 産業</p> <p>3.0 Society 3.0 工業</p> <p>4.0 Society 4.0 流通</p> <p>5.0 Society 5.0 社会</p>	<p>これからの社会</p> <p>一人ひとりの人間が中心となる社会</p>	<p>育成をめざす資質・能力</p> <ul style="list-style-type: none"> 生きて働く知識・技能の習得 未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力の育成 学びを人生や社会に生かそうとする学びに向かう力・人間性の涵養
<p>育成をめざす資質・能力をどう育むのか</p> <p>主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進する</p> <p>授業改善を推進する際の留意点(ア)</p> <p>児童生徒に求められる資質・能力を育成することを目的とした授業改善の取組は、既に小・中学段階に小・中学校を中心に多くの実践が積み重ねられており、特に義務教育段階はこれまで知識に寄り頼まれ、量積されてきた実践を否定し、全く異なる指導方法を導入しなければならぬと捉える必要はないこと。</p>	<p>育成をめざす資質・能力をどう育むのか</p> <p>主体的 対話的 深い学び</p> <p>主体的: 主体的に学習に取り組む態度、主体的に学習する意欲、主体的に学習する能力</p> <p>対話的: 対話を通して学びを深める態度、対話を通して学びを深める能力</p> <p>深い学び: 深い理解、深い学び、深い学びの達成</p>	<p>国語指導で困っていること</p> <ul style="list-style-type: none"> 言葉と「もの」がつかない 物語文の登場人物の気持ちを考えることが難しい 読解力とは 手話を出さずに導くのが難しい 助詞の使い方が難しい 詩の指導法が分からない 小学校に適した教材 教材選びの基準 児童がどういったら「力が付いた」といえるのか 言葉が定着しない 	<p>国語とは</p> <p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し、表現する資質・能力を次の通り育成することを目指す</p> <ol style="list-style-type: none"> 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し、適切に使うことができるようにする(知識・技能) 日常生活における人との関わりの中で伝えあう力を高め、思考力や判断力を養う(思考力・判断力・表現力等の育成) 言葉が持つ良さを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。(学びに向かう力・人間性等の涵養)

今の時代に必要であり、育むべき資質・能力について説明した後、それらの資質・能力を育むためには「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が必要であることについてお話ししました。そして、今年度の研究テーマについて、再度先生方と共有、確認しました。

また、後半では学習指導要領を踏まえた国語の指導などについてお話ししました。

研究授業 (1)

学年・教科： 小学部 2年 「国語」

題材名： 「スイミー」



研究協議の
ポイント

登場人物の行動を想像し、あらすじをとらえるために、場面ごとにどのような言語活動を行うことが効果的なのかということや、効果的な板書や本文の提示の仕方について、学習指導要領の留意点等を踏まえて協議を行いました。

研究授業 (2)

学年・教科： 小学部 4年 「国語」

題材名： 「ごんぎつね」



研究協議の
ポイント

文章を読んで感じたことを共有し、一人ひとり感じ方が異なること等に気付くために、対話的な学びをどのように取り入れることができるかについて協議しました。個性豊かな子どもたちの意見をつないでいくための仕掛けや、叙述に基づいて考えるための手だて等について様々な意見が出されました。

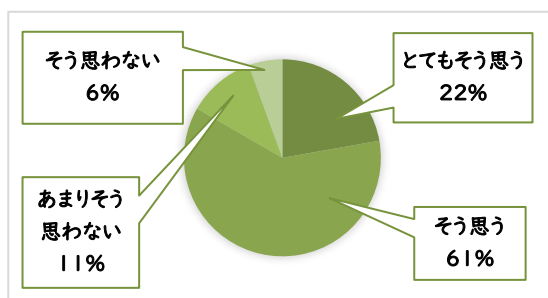
成果

テーマである国語の指導力の向上に向け、小学部が一丸となって研究に取り組むことができました。また、語彙力の向上や育むべき資質・能力についての理解が深まることで、教科の目標に基づいた授業づくりに取り組むことができました。国語の「読むこと」に関する内容では、子どもたちが叙述に基づいて考えを構成し、自身の意見などを交わすことが大切とされています。そのような活動をうまくリードできるような工夫が詰まった授業となりました。

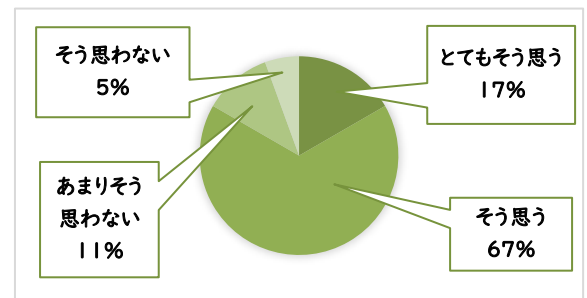
また、学部全体で同じテーマのもと研究を進める中、協議会中も「こうすればもっと良い授業になる」という視点で積極的に発言する先生が増えました。「この取組みは取り入れてみよう」と、研究授業を通して多くの先生方が建設的な意見交換を行うことができ、国語の指導力の向上に資する研究授業となりました。

アンケート 結果

① 学校のニーズにんでいた



② 今回の成果を継続的に生かしていく



(感想より)

- ・ 子どもたちへの関わり方や指導法に悩むことがあるので、相談できてよかった。
- ・ 育むべき資質・能力を意識しながら授業づくりができた。研究授業をしてよかったと思っている。
- ・ 校内研修のみでは授業力向上が難しいと感じていたので、外部講師を招いての研修ができて良かった。今後も続けてほしい。
- ・ 授業者の考え方を学び、それが自分の学びにもつながった。
- ・ 研究授業や協議会の持ち方についてもアドバイスを受け、自身の授業改善に生かそうという姿勢で協議会に参加する教員が増えた。
- ・ これからも校内で研究授業の体制をより確固なものとしていきたい。